

令和元年 11 月 13 日

特定非営利活動法人 気象システム技術協会

防災気象講演会を開催（京都分室）

当協会京都分室は「大雨を監視する」というテーマで防災気象講演会を実施した。

本年 7 月には鹿児島市、8 月には九州北部、そして 9 月と 10 月の台風では記録的な大雨により東日本に甚大な被害をもたらした。近年こうした豪雨災害が頻発するようになっている。今後地球温暖化により大雨はさらに局地化、激化するだろうといわれています。

頻発する豪雨災害から住民を守るためには気象庁の情報に加え地域の気象情報は重要不可欠な要素になっている。そうした視点を念頭におき今後の防災行政の一助になれるようお願い、京都府南部の自治体をはじめ気象分野の関係者を対象に下記により講演会を実施した。

講演にあたっては、長らく気象行政や研究に携わってこられた専門家のご協力を得た。

1.開催日時 令和元年 11 月 13 日（木）14 時から 16 時 30 分

2.場 所 NPO 法人 気象システム技術協会 京都分室
京都府京田辺市（東洋電子工業株式会社 会議室）

3 講演内容

1) 地球温暖化と防災気象

櫻井 邦雄

略歴 元気象庁長官

2) アジア地域気象が日本の気象・災害に及ぼす影響について

林 泰一

京都大学東南アジア地域研究所連携教授

3) 気象観測値の防災情報への反映

神田 豊

略歴 京都地方気象台長

気象庁主任予報官

名古屋地方気象台長

現 航空保安大学講師

4) 本年、南山城周辺で発生したゲリラ豪雨を最新レーダ
で観測した事例解説

大藤 明克

工学博士・気象予報士・技術士

NPO 法人 気象システム技術協会 京都分室

理事長挨拶



会場風景



櫻井先生による基調講演



神田先生による講演



大藤講師による講演風景



東洋電子工業株式会社 屋上の観測機器見学

